

◆『アジア・キリスト教・多元性』第7号をお届けいたします。

この研究雑誌は、研究会「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」（通称、「アジアと多元性」研究会）の一年間の活動報告として刊行されてきましたが、本7号の刊行によって、本研究会の7年目の活動も無事締めくくることができました。7年の間、継続的に雑誌が刊行できたことについて、今回論文を執筆いただいた方々、またほかの研究会メンバーの方々に、この場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。

なお、この研究雑誌は、創刊号の当初から、研究会のホームページにおいて公開の電子ジャーナルとしてスタートし、現在に至っておりますが、昨年度から、京都大学学術情報リポジトリにも、登録しておりますので、電子ジャーナルとしてより広くご覧いただけます。

◆2008年度の研究会の活動の詳細については、本号の「研究会の活動内容（2008年度）」あるいは研究会のホームページに記録された通りですが、本年度も毎月一回の研究会を積み重ねることによって、充実した個人研究と共同研究を進めることができました。今後は、こうした研究会を一層充実させながら継続するとともに、研究会としては、これから数年後をめどに、研究会における共同のあるいは個人の研究成果を論文集という形にまとめて出版したいと考えています。

2008年度は、そのために、毎月一回の研究会とは別に、8月に、「近代／ポスト近代とキリスト教」研究会との共催で、集中的な研究発表の場を設定しましたが、この試みは今後も継続されるものと思います。2009年度にはすでに何人かの新しいメンバーの参加が予定されていますが、今後この研究会を、参加メンバーそれぞれの個人研究の発表の場としてはもちろん、「アジア」「キリスト教」「多元性」という共通テーマの下での創造的な共同研究の発表の場としても育ててゆきたいと思います。

◆2009年度の日本宗教学会学術大会は、京都大学を会場に、9月11日から13日の日程で開催予定ですが、本研究会でも、この学術大会にパネル発表を行う方向で、計画が進みつつあります。具体的な企画は4月に入ってから本格的に準備を進める中での相談ということになりますが、現在の研究会メンバーの中で共通に取り組むことが可能なテーマを設定できればと思います。

◆本研究会は、今後、「東アジアのキリスト教」についての歴史的思想史的観点からの研究と、「宗教的多元性」についての理論的な研究とを軸にしつつ、多様な問題連関を結びつけながら、共同研究を進めてゆく予定です。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、ぜひわたしたちの研究会にご参加ください。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2009年3月

研究会代表  
芦名 定道